

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成

- (1) やさしく
- (2) たくましく
- (3) かしこく

合言葉

わたしが主人公、一人ひとりが主人公 ~わたしを知る、認める、表現する、実現する~

2 学校経営方針

(1) 学校力を高める

- ① 子どもの実態を踏まえた確かな力(学力、体力、生活力、心)を育てる
- ② 一人一人の教師が、教育専門職としての使命感と移動意欲に燃え、資質の向上及び指導力の向上に努める
- ③ 校地、校舎、施設等を整備し、清潔感あふれる教育環境づくりに努める

(2) 地域力の活用

- ① 学校と家庭・地域の連携を深め教育力を充実する

(3) 組織力を生かす

- ① 職員がお互いに信頼し合い、チーム力を生かし業務の縮減に努める
- ② 働きやすく、明るい職場づくりに努め、職員個々のストレス(目標0)を軽減し不祥事根絶を目指す

3 重点目標

【やさしく】の実現に向けて

○心でつながる「あいさつ・返事」 ○学級づくり・仲間づくり ○教育実践の成果の汎用化

【かしこく】の実現に向けて

○どの子どもも確かな学力がつく「わかる・できる授業」 ○確かな学力につなぐ習得  
○質の高い、教育活動の構想・実践

【たくましく】の実現に向けて

○「休養・運動・栄養」の習慣化 ○「より良い学校づくり」への参画委員会・係活動で貢献を実感  
○働く体験の重視 ○自分の命を自分で守る

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート集計 肯定的割合(%)				分析及び改善策
			児童	保護者	地域	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	96	100	100	概ね高い数値が挙げられている。昨年底かった「学校は楽しいですか」に対する児童の評価も向上している。今後も、学力定着のための授業を核にして指導を重ね、児童の所属感、自己肯定感につなげていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	94	97	95	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している				89	
	業務改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している				88	

心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	96	89	96	89	児童の自己評価は高いが、生活指導に関わって、「ルールやマナー」「挨拶」の項目で、まだ十分ではない実態が伺える。特に、「挨拶」については、昨年度の代表委員会で児童が「ワンストップ挨拶」の取組を決定し自主的をもたせて取り組んできているが、依然として保護者の記述には「校内での挨拶が少ない」という意見が散見された。良い例を例示するなど、ゴールの姿をイメージさせていく必要がある。併せて、「あ・は・は運動」については、さらなる指導と周知が必要であるという結果だった。
		挨拶をよくしている	92	84	92	56	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	92	86	71	78	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	98	96	100	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92	94	100	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	94	95	92	89	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	94	95	93	89	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98	92	100	89	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	94	94	100	100	「家庭学習」については、児童の自己評価が向上しているが、取組姿勢への二極化が伺える。学習方法を例示して啓発に努めていく。また、「キャリア教育」については、三者ともに数値が低くなった。キャリアパスポートの取組を充実させていく必要がある。さらに、継続して読書活動は充実を図っていきたい。
	学習指導・教育課程	児童は、授業で「勉強が分かるようになる、できるようになる」と感じている。	94	93		100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	92	83		100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	84	88		56	
	読書活動	子どもたちの読書活動の充実にも努めている				78	
健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	96		100	基本的な生活習慣について、「早寝早起き朝ごはん」について問うた保護者の評価が低くなった。特に、早起きが苦手な児童が多く散見される実態から、家庭の困り感が伺えた。連携を密にして対応したい。また、コロナ禍の影響で、体力向上についての評価が低くなっている。
	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣が身に付いている	97	81		100	
	体力向上	体力向上に努めている	81	84		78	
	食育	食に関する教育活動を行っている	81	94		56	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	94	99	95	100	HPの更新頻度については課題があり、教職員の自己評価が低くなった。このことは、保護者の記述にも改善要望が多くあった。学校・家庭・地域の三者連携については、昨年度より教職員の自己評価が下がっている。地域との協働活動がコロナ禍で少なくなっていることが影響していると考え。体罰防止に関わる児童・保護者への調査については、2月に別途調査を行う。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる		92	96	56	
	PTA・地区との連携	学校は家庭や地域との連携がとれている		97	92	78	
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	89	
	体罰防止						
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている			94	100	働き方改革で、日課の改善等で、放課後時間を生み出すことに一定の成果はあったが、全体の業務量をスリム化することに課題が残っている。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる		92	100	89	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

評価結果から、今年度からの合言葉「わたしが主人公、一人ひとりが主人公」は児童の意識に浸透してきている手応えを感じた。児童の自尊感情や自己肯定感を育みながら、自主的な面が伸びてきている。

しかし、一方で、「あはは運動」に関わって、気持ちの良いあいさつの習慣化については課題があった。気持ちの良いあいさつについて、具体的なゴールの姿を、児童だけでなく、教職員・保護者・地域とも共有しながら指導を進めていく必要がある。

また、キャリア教育、読書活動、食育、育友会・地域との連携の項目で、教職員の自己評価が低かった。このことについては、再度ねらいを確認して、充実に努め、取組に対して達成感や成就感を得られるようにしていきたい。さらに、これら取組に対する説明責任を果たすためにも、次年度はHP更新頻度についても改善を図っていく。加えて、次年度の「児童アンケート」へも読書に関わる項目の追加する。

## 6 学校関係者評価

○概ね高い数値結果となり、学校教育の充実が図られていると感じる。

○コロナ禍で、いくつかの教育課程における地域連携の取組が中止となり、これについての心配の声があった。コロナ後の再開の折には、ぜひ、縮小ではなく継続をお願いしたい。

○12月に地域が呼び掛けて、学校・家庭・地域での合同清掃を実施したが、予想の2倍以上の参加者が集まり、銭座小学校区の三者協力体制や意識の高さを感じた。ぜひ、次年度以降は、育友会が音頭を取って実施してほしいと願う。

○「児童のあいさつへの意識が二極化している」ことについては、地域としても、児童の姿から同様に感じている。登校時は、特に、低学年にあいさつができない児童が多くいるようだ。また、下校時や放課後に会う児童へ、こちらからあいさつをしても、なかなか反応がない。この改善に、学校は具体的にゴールの姿を示しながら継続的な指導をしていくということだが、あいさつの習慣化は家庭教育によるものが大きいので、育友会へも協力を依頼し、啓発していく必要があると感じる。地域としても、登校時だけの声掛けだけでなく、下校時にも「おかえりなさい」と声を掛けながら、あいさつがあふれる銭座校区の雰囲気づくりに努めていきたい。

○校舎から体育館への通用スペースは、屋根部分が狭く感じている。広くするよう改善要求をしてはどうか。

○情報発信について、学校が「HPの更新頻度」の改善を挙げているが、これに加え、地域の希望者にも「安心安全メール」の登録を呼びかけてはどうか。

○放課後は、社会体育クラブだけではなく、多くの学童クラブの児童が、校庭で遊び、身体を動かしている。この子どもたちのあいさつはとても気持ちが良い。やはり「よく遊ぶ」ということも、児童にとって大切であると感じている。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

上記「5」の内容に以下の内容を加える。

- (1) 学校・家庭・地域の三者合同での校内清掃美化活動を定期的実施する。
- (2) あいさつの習慣化についての家庭への協力依頼を行う。(育友会による「あはは運動」の取組の充実)
- (3) HPの充実など、情報発信の強化を行う。地域の希望者へも「安心安全メール」の登録の呼びかけを行う。
- (4) コロナ後の地域連携について、準備を進めておく。